“橋愛”あふれる皆さん。池田ヘそっ湖大橋とともに記念撮影

「橋の博物館」吉野川をゆく見学バスツアー。大好評につき、上下流2回にわたり開催しました

「吉野川は橋梁技術者の心をくすぐる川ですね」と脇川さん。川の長さ、幅、地形、水量などの諸条件、経済性を考え合わせて、橋の形式は決まります。吉野川には桁橋、アーチ橋、斜張橋、吊り橋、トラス橋、そして斜張橋形式とケーブルトラスト形式を組み合わせたケーブルイグレット橋など、当時の最新工法を駆使してさまざまな橋が架けられました。その多種多様さは、さながら「橋の博物館」。「ダムや堤防のない時代、台風のたびに暴れ川と化す吉野川は、工事も困難だったと思われます。吉野川に挑むことで徳島県の架橋技術は鍛えられていったのかもしれません」という言葉にうなずく参加者。阿波中央橋(下記事参照)では、バスを降りて、橋の構造やイサム・ノグチ作のモニュメントを間近に見学しました。

好評につき、第2弾として、12月7日に穴吹橋～三好橋間を巡る「中流・上流編」を開催。バスの中でも次々と質問が飛び交い、熱心な参加者に応えて脇川さんの解説もより熱を帯び、なかなか次の橋に進めないほどでした。

ところで脇川さんにとっての吉野川の橋ベスト3は？「1番は戦後初の橋・阿波中央橋。お金も材料もない時代に、よく2千tもの鋼材を集められたものです。流域の人々の熱意の賜物ですね。2番は、日本を代表する橋梁技術者・増田 淳が手がけた吉野川橋、穴吹橋、三好橋。3本をひとまとめで『別格』とさせていただきましょう。3番は……」

――3番目は次回のお楽しみに。

設計・施行、補修で吉野川の橋に多く携わった脇川さん、橋についての知識はとめどなく……

↑**岩津橋**　塔から斜めに引張ケーブルで桁を吊る斜張橋。美しいデザインで中流を代表する橋

←**美濃田観光橋**　森 金次郎氏が発起人となり、昭和28年に着工したが、資金が集まらず、中止となった幻の橋。北岸の橋台と中央の橋脚が残る

吉野川 橋ものがたり 第2回 阿波中央橋

緑と青空に映えるライトグレーのワーレントラス――吉野川市鴨島町と阿波市吉野町を結ぶ橋長821mの阿波中央橋は、昭和28年(1953)に完成。吉野川橋と穴吹橋のちょうど中間であるため、阿波“中央”橋と名付けられました。

この地点は、古くから阿波と讃岐を結ぶ重要な交通路で、渡し舟が行き来していました。昭和3年(1928)、工兵隊の演習で木製の「記念吉野川中央橋」が架けられ、賃取り橋として運営されていました。その木橋が昭和23年(1948)の洪水で流失。戦後の物資のない中ではありましたが、地域住民と県の強い要望で橋の建設がスタート。台風による資材流失などの困難を乗り越えて昭和28年(1953)3月に完成。戦後における国内初の長大橋として、大きな脚光を浴びました。

橋の親柱には、世界的な彫刻家イサム・ノグチによる「男の子」と「女の子」の石像がちょこんと腰掛けています。イサム・ノグチは日系アメリカ人。2つの祖国を持つ彼は、この彫刻に平和への願いを込めたのではないでしょうか。戦後復興のシンボルであったこの橋にふさわしいモニュメントです。

橋のたもとには源太渡し跡の碑が建っています。南岸には架橋由来を記した石碑も

イサム・ノグチによる男女の小児像は、両岸の親柱に設置されています